

## ○協議（１）今後の委員会の在り方について グループワーク意見まとめ

### A 班 湊委員長、遠田委員、諸江委員、金平係長、諸澤

- ・市職員が昼休みにバスケットをやるような習慣があれば、能代の名物風景になるし、PRにもなる。
- ・市長室にバスケットリングを置いて、市長の来客にバスケットの街をPRできると面白い。
- ・今後、バスケットの街能代をどうプロモーションしていくかが大事で、プロモーションにかかる予算が捻出できないのであれば、委員会として市長に提案するなど、そういった委員会を目指す必要がある。
- ・能代科技高に選手を集めるために、能代バスケットミュージアムの公式SNSでたくさん周知してもらってありがたいと思っているが、リクルートにかかるお金が少ないため、そこに予算を出してもらえると、リクルートの幅が広がるようになる。
- ・能代科技高生の住居関係を考えることが大事になってくる。例えば、選手が里帰りしやすいように旅費の負担を一部行うなど、親御さんにも喜んでもらえる支援もあっていいかもしれない。
- ・SNSの発信強化…特にTikTokの活用など。
- ・バスケットの街能代のために企業誘致を行う。
- ・委員会と今実際にバスケットに携わっている人たちを結びつける、委員会がブレーンとしての立場。

### B 班 山田委員、竹内委員、長嶺委員、米川主事、鈴木係長

- ・委員会の開催回数が少ないから、今まで協議してきたことを忘れてしまう。
- ・企画はいっぱい出てくるが、実行できていない。委員会にいる全員が同じ方向を向いているか、取組をやって終わりになっている、持続性がないことが考えられる。
- ・土台作りが大事で、バスケットの魅力についてを話し合う機会を作り、全員で共有する。
- ・PDCAサイクルのように、計画を立て、実行に移したら、その後の検証や確認が大事になり、次に活かすことができる。やって終わりにしない。
- ・確認をする場が増えると、委員会の開催も増えていき、全員で情報共有を図ることができる。
- ・それぞれの委員が考えていることを共有できる委員会にしたい。